

苫東環境コモンズの
活動をまとめて報告



haskap
NEWS LETTER

～コモンズの現地から発信する～

勇払原野のSPIRIT

コモンズの視線

ニュースレター第31号をお届けします。山仕事や山菜採りなどをするつど、一体、土地や自然は誰のものというべきなのか、考えさせられます。こういった思いは、これまでも多くの識者が本にまとめていますし、歴史を紐解いても、天皇のものだったり幕府のものだったり、開墾をしたものに属したり、あるいは持ち主のいない所は国のものにする、などという定めもあったりします。この原野に出会って半世紀も過ぎようとしている現在、所有者がどう代ろうと「風土」は地域の人が共有するものではないか、と自信をもつに至りました。それは人の世界ばかりでなく、春秋の渡り鳥を見ている気づかされることです。ただ、そのルールは?となると複雑かつ面倒すぎて個人では手におえません。そこには慣習というものもあり、ひとつの立派な知恵でもあるようです。(草薙)

NPO <http://hayashi-kokoro.com/commons00.html> 雑木林だより <http://hayashi-kokoro.com/zouki00.html>

TOPIC 1

除間伐作業を2か月前倒し



昨シーズンの大雪および作業のさらなる効率化を考慮し、例年1月に本格化する冬の除間伐作業を1

1月早々に開始することになりました。あらかじめの伐倒を12月までの2か月で目途を付け、1月以降の積雪期はスノーモービルによる藪だし・搬出をメインに、積雪期の伐倒はあくまで補完的なものに位置づけるという初めての大幅変更の試みです。

その結果、除間伐作業がいつもより順調に進み、ポータブルウインチのレンタルも加わって、かなりスムーズにシーズンを終わりました。幸い、大雪もなく除雪は人力でもほぼできる可能性が見えてきました。前シーズンのストックをある程度確保しておけば、年ごとの薪生産量の変動もカバーできることもわかりました。

TOPIC 2

学びながら森を育てる



ひとくちに広葉樹林の保育と言っても実は地域ごとにすべて状況が違い、かつ取り扱いのマニュアルがありません。そのため、苫東コモンズではNPO設立以来、篤林家や研究機関等との情報交換に配慮してきました。研修やフォーラムなどの勉強会もそれにあたりませんが、令和4年度は、6月の北大雨竜研究林、7月の厚真本田山林で研修を行ったほか、10月は地元安平町にある三菱マテリアルの山林で、会員の川合さんが担当する広葉樹の取り扱いについて、北大の研究者らと視察

研修を行いました。

翌週には苫東コモンズの現地にも明るい、東大癒しの森研究所所長の齋藤暖生氏を迎え一般市民も交えたフォーラムを開催しました。12月は古い薪会員で長年ペチカを愛用している船木幹也氏を招いて「ペチカで薪を焚く」のテーマで講演をいただき、会員のト部さんが、勇払原野のサケ文献調査の結果をレポートしました。

TOPIC 3

コナラのフットパス修景から次のシーズンはハルニレのルートへ



保育エリアの移動に伴い、令和4年度の除間伐は新設を目指すコナラの沢のフットパス沿いで展開しました。左の画像は3月にほぼ貫通したフットパスを巡回した際の記念写真。右は、5年度に手掛けるハルニレのフットパスに倒れているハルニレ。森づくりの作業は、枯死木やツルやこれら風倒木を切り開きながら、フットパスという路網を残しながら進められます。

TOPIC 4

割って直ぐ積む作業へ転換



ボランティアが創る地域の森林公園を目指しながら、地域暖房の注目である「薪」を産み出す手作業は、様々な工夫が求められ次々と実践されます。薪割りと薪積みも例にもれず、昨シーズンまでは薪棚の土台を近隣の作業場からパレット材をもらい加工して強固なものを敷きました。これで倒壊や汚れは防止可能。

今季は作って直ぐ積む方式を取り入れ、薪割り機1

台のほか、マサカリを使って手割り隊もサポート。もっとも、除間伐作業のやり残しもあるため、作業はまだ数か所に分散したまま、同時並行的に進められます。

上の写真右は、その結果誕生した手割り100%の一棚。ナラが50%以上できれいな木口のため、もう一棚を作って付加価値を高めた「雑木薪1年分」として市価で売りに出す提案もなされました。打ち合わせ不足で偶然出来てしまった高級薪、このままインテリアにも使えるグレードです。さて誰が引き取るにしても余りに不公平になってしまいますが、行く末はいかに？

TOPIC 5

カラマツ混交林目指して



4月からは静川小屋周辺のカラマツ保安林の枯死木整理を開始しました。マイマイガや野ネズミの食害で立ち枯れになったものが、林道やフットパスに倒伏する危険性が出てきたためです。折しも、杉の人工林を広葉樹と混交させることで生態系サービスが著しく増すという研究成果も報告されています。さしずめここは、カラマツとナラの混交林を目指すこととなりますが、そのために、まず立ち枯れ木を整理し林冠を透かす作業が求められています。里山景観創造と連動中。

令和4年9月以降の主な活動

*行事末尾の数字は参加者数

9/24 Sat きのご (まだ少ない)、静川小屋作業 6

9/28 Wed 大島見回り 2

10/1 Sat 森づくり研修その3 15(10+5)

10/6 Thu 研究林下見 2

10/8 Sat コモンズフォーラム NO.9 20

10/9 Sun キノコ探索 6

10/12 Wed 大島見回り 1

10/15 Sat 大島作業、きのご 12

10/19 Wed 大島・静川見回り 1

10/22 Sat 第13回総会とBBQ 11

10/26 Wed 大島テント作業ほか 3

10/29 Sat チェーンソースキルアップ研修 13

11/5 Sat 大島除間伐作業 13

11/9 Wed 静川来客 2

11/12 Sat 大島除間伐作業 8

11/16 Wed 静川作業・土地所有者打合せ 1

11/19 Sat 大島除間伐作業 14

11/26 Sat 大島ヤード作業 8

11/27 Sun 育林コンペ作業 6

11/30 Wed 関係者協議ほか 1

12/3 Sat 大島除間伐作業 7

12/7 Wed 育林コンペ作業 1

12/10 Sat 山の神参拝、勉強会 13

12/16 Fri 作業 1

12/17 Sat 大島除間伐作業 8

12/19 Mon 静川小屋 2

12/24 Sat 大島除間伐作業 11

1/7 Sat 大島除間伐作業 9

1/14 Sat 大島除間伐作業 10

1/19 Thu 大島除間伐作業 1

1/21 Sat 大島除間伐作業 10

1/26 Thu 大島除間伐作業 1

1/28 Sat 大島除間伐作業 11

1/31 Tue 大島除間伐作業 1

2/4 Sat 大島除間伐作業 11+1

2/8 Wed 大島除間伐作業 1

2/9 Thu 大島作業 1

2/11 Sat 大島除間伐作業 9

2/15 Wed 大島作業 1

2/18 Sat 大島除間伐作業 11

2/21 Tue 静川点検 1

2/22 Wed 大島作業 1

2/23 Thu 大島除間伐作業 1

2/24 Fri 大島作業 1

2/25 Sat 大島除間伐作業 8

3/1 Wed 大島作業 2

3/4 Sat 大島風倒木処理作業 9

3/9 Thu 大島作業 2

3/11 Sat 大島風倒木処理作業 8

3/15 Wed 大島作業 1

3/18 Sat 大島風倒木処理作業 13

3/20 Mon 育林コンペ作業 1

3/21 Tue 大島作業 1

3/25 Sat 大島風倒木処理・薪割り薪積み 13

3/30 Thu 育林コンペ作業 1

(2023.3 total 51)

4/1 Sat 大島風倒木処理・薪割り薪積み 12

4/4 Tue 大島薪割り 1

4/5 Wed 大島薪割り、静川風倒木処理 2

4/8 Sat 大島風倒木処理・薪割り薪積み、静川風倒木処理 10

4/12 Wed 静川風倒木処理 1

4/15 Sat 大島風倒木処理・薪割り薪積み、静川風倒木処理 15

4/19 Wed 静川風倒木処理 1

4/22 Sat 薪割り薪積み、静川風倒木処理 10

*昨年度4/1—3/31の実稼働人数は延べ658人でした。

編集後記

■本レターはこの手のものとしては異質なネーミングですが、もともとは昔地域の古老とメーブルシロップを作った時の商品名。煮詰めながらこれは原野の魂を凝縮したものではないか、という思いが名付けの動機でした。■NPO設立の段取りから数えて15年、世話役と事務局長を務めてきた小職がこのたび代表に昇格？しました。勇払原野の魂だけはなかなか引き継がないかも、という思いから小紙は当面続けて担当して広報に努める所存です。変わらないご愛読を。

*お問い合わせ・ご感想は、kt-884-556@nifty.com 090-6999-2765 (草苺)まで。